

北海道医歌人会詠草



東京Sky tree

札幌 古屋 統

八重洲出て回向院過ぎ綿糸町押上駅前塔口に着く(直通バス)
sky tree 日本中から翹集するエレベーター広場人々ひとの渦
ビル街は眼下遙かに小さくて高所恐怖症起る隙なし
十七時西の逆光真向いに東京タワー見え富士も望めず
真下の街覗き群れ乗るガラス盤天より人の降るためしなし

米寿祝

美唄 吉村 誠治

狸小路のイベントホール借り切りて我の米寿のパーティ始まる
夫々に練習重ねし家族らの歌にピアノにバイオリンギター
家族皆元気に揃ひし記念写真米寿の我は真中にありて
喜寿祝いゴルフコンペは十年前米寿のコンペ出来る幸せ
米寿なる同期の友の参加なくコンペ終えしが喜び半ば

ハリエンジュ

札幌 浜島 泉

雨の後ハリエンジュ散り片隅に寄りて積りて萎え朽ち初めつ
まどろみてバス右折せり降りつべしヤマボウシ咲くバスターミナル
アンブレラ振りかざしける高校生バットにあらずクラブのポーズ
妻の兄納骨の日の丘に咲くコウリンタンポポこぬか雨降る
卒寿過ぎ詠むことなしと言ふめれど庭にズミ咲く愛でにけるひと

渚にて

釧路 兎玉 昌彦

浪洗ういわをにしかとこびりつき懸命に生きてる無数のつぶ貝
丸い石と見まがう中に動きありいそべに見たる海の生きもの
打ち寄せる浪音を子守唄に聞く生命誕生の遠き記憶か
海泥を埋め尽したる貝殻に空しきのちの営みを見る
海からの浸蝕に会いしトドマツは汚泥に白き骨さらすなり

つぶやき

旭川 稲積 文子

不器用に夕飯の食材並べつつ買物が上手になったと一人つぶやく
根性と同年齢の友にはげまされ有頂天になる幼きわれは
異世代か異質な人かとためらうも会話の溝は深まりてゆく
ふりかかる禍多き月過ぎて安堵する時間の長きを願う
言い過ぎて空しさが残る空間は吾のみが負う責めかと思ふ

紅葉

江別 三宅 浩次

神代より愛でる紅葉に変わりなく歌に受け継ぐ想いは同じ
現代はもみじ葉の色ケミカルにアントシアニンというは虚しい
黄と赤にイタヤカエデの葉は交じりその陽だまりに足をとどめる
旭岳に初冠雪の報せあり広がる紅葉に対比する白
我が家にも紅葉はあるそれなりに移ろう季節を意識する時間